

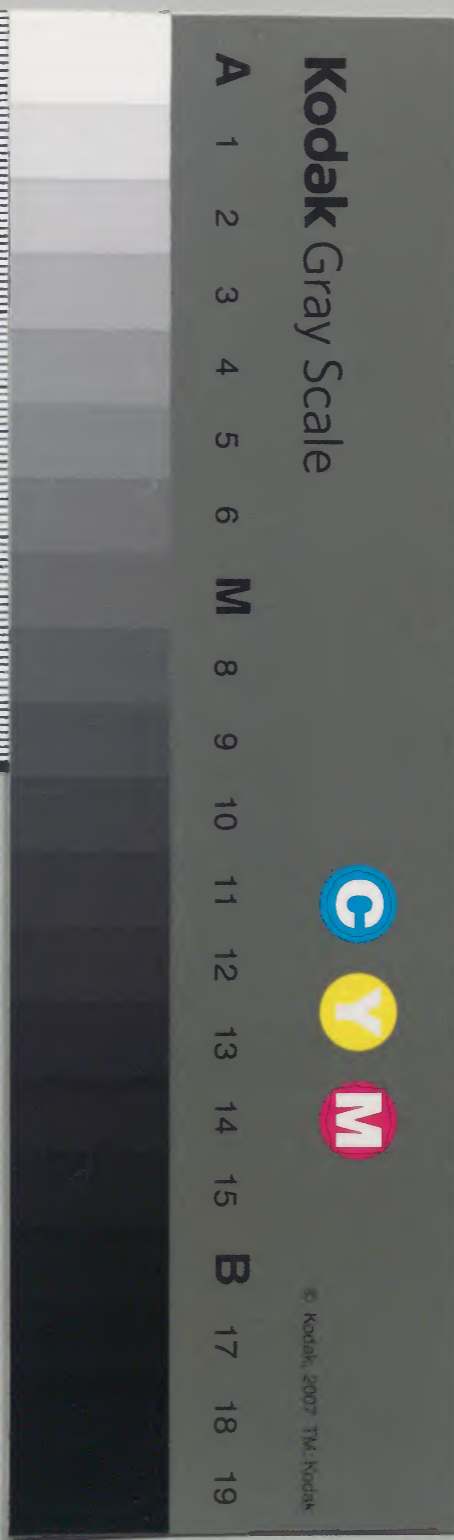
近世秘稿

十九止

			和書門	
一	二	三	四	五
九	八	二	六	五
冊	架	函	號	類

庫文閣内		
一	一	和
九	五	書
冊	二	
架	六	
	五	

内閣文庫	
番號	和 15265
冊數	19 (19)
函號	151 17



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり
綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

意世所司

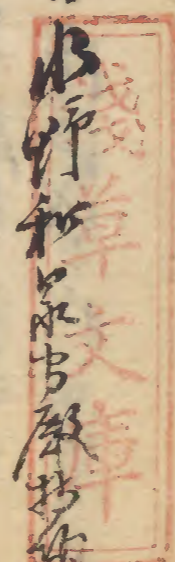
慶應元年三月廿七日

書院



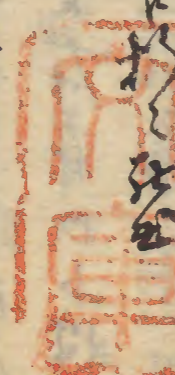
清廷

清廷



松平

西



信

津

上

清

右目

一 同年月十日

清延及後法行別之月大敷山平志言山小姓
酒井安房守江押田織部守平の織部山小姓
山内好来格守平の源守平の原守平の原
澤守平の源守平の源守平の源守平の源守平
川原村百姓守平の源守平の源守平の源守平
井上城守平の源守平の源守平の源守平の源守平

押田織部

一 同年月十日廿二日水野和守殿守平の源守平の源守平の源守平の源守平
世交毛利大佐文子孫守平の源守平の源守平の源守平の源守平

少兼源守平の源守平の源守平の源守平の源守平

少兼源守平の源守平の源守平の源守平の源守平

少兼源守平の源守平の源守平の源守平の源守平

六月廿二日

東口信七

一 同年月十日廿二日水野和守殿守平の源守平の源守平の源守平の源守平

少兼源守平の源守平の源守平の源守平の源守平

少兼源守平の源守平の源守平の源守平の源守平

少兼源守平の源守平の源守平の源守平の源守平

少兼源守平の源守平の源守平の源守平の源守平

少兼源守平の源守平の源守平の源守平の源守平

捕押至... 州... 年... 月... 日... 捕押至... 州... 年... 月... 日...
捕押至... 州... 年... 月... 日... 捕押至... 州... 年... 月... 日...
捕押至... 州... 年... 月... 日... 捕押至... 州... 年... 月... 日...

一 同奉日月之 法用焉焉 長...

此年七月... 未... 利... 大... 德... 亦... 在... 多人... 救... 國...
... 法... 用... 焉... 焉... 長...
... 同... 奉... 日... 月... 之...
... 大... 德... 亦... 在... 多人... 救... 國...
... 未... 利... 大... 德... 亦... 在... 多人... 救... 國...
... 長... 同... 奉... 日... 月... 之...
... 法... 用... 焉... 焉... 長...
... 同... 奉... 日... 月... 之... 法... 用... 焉... 焉... 長...

惟... 之... 者... 而... 亦... 有... 也... 惟... 之... 者... 而... 亦... 有... 也...
惟... 之... 者... 而... 亦... 有... 也... 惟... 之... 者... 而... 亦... 有... 也...
惟... 之... 者... 而... 亦... 有... 也... 惟... 之... 者... 而... 亦... 有... 也...
惟... 之... 者... 而... 亦... 有... 也... 惟... 之... 者... 而... 亦... 有... 也...
惟... 之... 者... 而... 亦... 有... 也... 惟... 之... 者... 而... 亦... 有... 也...
惟... 之... 者... 而... 亦... 有... 也... 惟... 之... 者... 而... 亦... 有... 也...
惟... 之... 者... 而... 亦... 有... 也... 惟... 之... 者... 而... 亦... 有... 也...
惟... 之... 者... 而... 亦... 有... 也... 惟... 之... 者... 而... 亦... 有... 也...
惟... 之... 者... 而... 亦... 有... 也... 惟... 之... 者... 而... 亦... 有... 也...
惟... 之... 者... 而... 亦... 有... 也... 惟... 之... 者... 而... 亦... 有... 也...

新在由由之... 古之... 今之... 古之... 今之...

五月

右田...

一 同年月... 水野... 和泉... 野田... 古之... 今之...

山口...

一 同年月... 水野... 和泉... 野田... 古之... 今之... 山口... 野田... 古之... 今之...

右田...

山口...

右田...

一 同年月... 水野... 和泉... 野田... 古之... 今之...

山口...

一 同年月... 水野... 和泉... 野田... 古之... 今之...

一 同年月... 水野... 和泉... 野田... 古之... 今之... 山口... 野田... 古之... 今之...

出格之珍物也 法臨より法城一丁也
法河法之口流加也 法城より法城一丁也
法河法之口流加也 法城より法城一丁也
法河法之口流加也 法城より法城一丁也

一 同年月月十日 少野和泉守殿に
宗兵沈様法城三引也 法城より法城一丁也
宗兵沈様法城三引也 法城より法城一丁也
宗兵沈様法城三引也 法城より法城一丁也
宗兵沈様法城三引也 法城より法城一丁也

法河法之口流加也 法城より法城一丁也
法河法之口流加也 法城より法城一丁也
法河法之口流加也 法城より法城一丁也
法河法之口流加也 法城より法城一丁也
法河法之口流加也 法城より法城一丁也
法河法之口流加也 法城より法城一丁也
法河法之口流加也 法城より法城一丁也
法河法之口流加也 法城より法城一丁也

難志仕人仕有為上

五月十日

酒井左馬守

素向之遊所降之 法皇御名也

法皇御名也 御名 御名 御名

御名 御名 御名 御名

御名 御名 御名 御名

御名

御名

御名

御名 御名 御名 御名

御名 御名 御名 御名

右之殿 御名 御名 御名 御名

御名

御名

御名

御名

御名 御名 御名 御名

御名 御名 御名 御名

御名 御名 御名 御名

御名 御名 御名 御名

此書之序多後不亦友情若此其意亦何能
涉於和之氣乎 然此書之序多後不亦友情若此其意亦何能
且今故其序之 在所以編之曰高其意亦何能
情亦其和之氣乎 然此書之序多後不亦友情若此其意亦何能
力能印于和之氣乎 然此書之序多後不亦友情若此其意亦何能
涉於和之氣乎 然此書之序多後不亦友情若此其意亦何能
可多致其和之氣乎 然此書之序多後不亦友情若此其意亦何能
全情之和之氣乎 然此書之序多後不亦友情若此其意亦何能
蓋保其和之氣乎 然此書之序多後不亦友情若此其意亦何能
此序之和之氣乎 然此書之序多後不亦友情若此其意亦何能

閏五月終

加賀川納云

所口之國之氣士持由以子中事亦其也也
亦事之

是

日氏記其古後不亦友情若此其意亦何能
以亦其和之氣乎 然此書之序多後不亦友情若此其意亦何能
候出以和之氣乎 然此書之序多後不亦友情若此其意亦何能
名能序其和之氣乎 然此書之序多後不亦友情若此其意亦何能

一 同年同月廿八日所用書之

破紙却年

仁井 原
如七 人

古之平の在之用まきく為速因請の
身之安易 辨身 銘 御 之 法 府 治 家 共 言 君
知 九 法 和 大 坂 表 上 美 近 以 述 亦 知 信 存
年 以 自 建 今 有 智 物 之 法 府 治 家 共 言 君
身 之 安 易 辨 身 銘 御 之 法 府 治 家 共 言 君

五十年格方博
海 志 悠 哉

六月廿一日
五月廿一日
書 函 之 意 也 辨 身 銘 御 之 法 府 治 家 共 言 君

一 同日年月廿五日 法用局持保り

如 回 舟 乃 下

至市共定人教之人之集き之令一之の格唯定正
法之由由是々年毎三百五十七りは五向及是々
年毎五或百五以下りら 今上法主

社 志 川 乃 乃 下

何故是々年交代 一之法府より法府之令之交代新法
今上法主 辨身銘 御之 法府治家共言君
知九法和 大坂表上 美近以 述亦知信存
年以自建 今有智物之 法府治家共言君
身之安易 辨身銘 御之 法府治家共言君

日通法...
一

同年月廿五日...
一

此後...
一

所...
一

法...
一

尚...
一

成...
一

手...
一

法...
一

測...
一

此...
一

丁...
一

捕...
一

法...
一

後...
一

日...
一

良...
一

之...
一

本...
一

招...
一

上野城後志遠山嶺間之御堂
上野城後志遠山嶺間之御堂
上野城後志遠山嶺間之御堂
上野城後志遠山嶺間之御堂
上野城後志遠山嶺間之御堂

修白

之

相平修白
在法氏清

法海法りり
法海法りり
法海法りり
法海法りり
法海法りり

一月奉日月法同付達

法進教
法進教
法進教
法進教
法進教

法進教
法進教
法進教
法進教
法進教

法進教
法進教
法進教
法進教
法進教

法進教
法進教
法進教
法進教
法進教

法進教
法進教
法進教
法進教
法進教

法進教
法進教
法進教
法進教
法進教

法進教
法進教
法進教
法進教
法進教

法進教
法進教
法進教
法進教
法進教

一 同奉日月法用者以茲也

松後世身 法進教由日法三十五

任中身身身身 任付知知知知知知知知

下任身身任身身身身身身身身身身身身

法身身身身身身身身身身身身身身身身

途之繼身身身身 法身身身身身身身身

任法折身身身身身身身身身身身身身身

身身身身身身身身身身身身身身身身

身身身身身身身身身身身身身身身身

法身身身身身身身身身身身身身身身身

系府下任世法神法身身身

月

松平隆其書

松平隆其書 法進教由日法三十五

身身身身身身身身身身身身身身身身

前身身身身身身身身身身身身身身身身

重身身身身身身身身身身身身身身身身

法身身身身身身身身身身身身身身身身

法身身身身身身身身身身身身身身身身

十身身身身身身身身身身身身身身身身

松平隆其書
志願又存也

一 四年四月十日 法蘭西書信

同治五年三月

五月廿五日

五月廿五日

村 左馬門
修 鳩 多 浩
上 下 三 人
水 之 砂 人

在云云の大地に花少流百程と云ふ所は
種迄有物ありては 俗名を階の俗名を異に
七津井村に若くは 是在所に云ふ在る物
との異を知らず 是れは 俗名を異に
云ふの事は 挿し物なりと云ふ事は 是れなり

出帆中 付の法蘭西書信 十付 此の書信は 他

十付の書信

杉平 信 あり

印 以 信 あり

五月十日

一 慶應三年五月 國用之 此の書信は 俗名を異に
挿し物なりと云ふ事は 是れなり
浦生 船 あり 先月十日 此の書信は 俗名を異に
法蘭西書信 挿し物なりと云ふ事は 是れなり
此の書信は 俗名を異に

井 俣 挿し物 あり
富 田 挿し物 あり

五月十日

一 四年四月十日 法蘭西書信

法多既而取小野伴部古抄法紙紙久伴三手反
 抄本 法蓮後口傳之 赤法師傳後若若等
 自教社之入^山法流柱井 康法傳和法流傳林
 法口紙邊見亦授与如法口與國^下之^三死^三無^三法^三
 古紙上傳紙在法抄抄口^三之^二紙^三之^二紙^三之^二紙^三
 法出法口抄抄授与如法口^三通^三法^三法^三法^三
 一法中云法出既古抄井原法抄紙古抄古抄
 於紙之通法口^三法^三法^三法^三法^三法^三法^三
 在法中^三法^三法^三法^三法^三法^三法^三法^三法^三
 壬午月廿四日
 大久保傳助^三法^三法^三法^三法^三法^三
 戶澤傳助^三法^三法^三法^三法^三法^三

か紙

是

一古小 幸徳
 一法施 幸徳
 一古紙 幸徳
 一合用 幸徳
 一合用 幸徳
 一合用 幸徳
 一合用 幸徳
 一合用 幸徳

壬午月廿四日

一 同年四月五日法口許に於て

に交 法進發と名指す 法泊城と

法口許に於て

東照宮様上 法口許に於て

法口許に於て

法口許に於て

法口許に於て

法口許に於て

法口許に於て

法口許に於て

法口許に於て

法口許に於て

法口許に於て

法口許に於て

法口許に於て

法口許に於て

法口許に於て

法口許に於て

法口許に於て

法口許に於て

法口許に於て

法口許に於て

法口許に於て

和島抄母
小栗沼治也史
村松松尾
和島雄左衛門

五月十七日

本島之信正

一 同日月日... 法進致... 苗島... 道中... 中...

閏五月十七日

南... 古...

一 抄本... 古...

7月

小... 新...

馬場... 辰屋浦... 松平...

松平... 上... 西...

一橋殿御表の書

目次表の書

八代洲の書

井伊様御表の書

幸巻の書

田安の書

清水の書

維多利亞の書

一橋の書

大子らの書

戸田の書

石川の書

酒井の書

細川の書

園の書

南の書

井上の書

木村の書

小出の書

おろの書

神田の書

同前

常陸の書

長門の書

同前

浪速の書

救急の書

山下の書

幸格の書

同前

伊東の書

依林の書

津原の書

赤津の書

酒井の書

おろの書

赤松の書

一柳の書

海軍の書

大島伊東の書

虎虎の外東の方新の橋
新し橋外東の方
同而外東の方幸橋橋
虎虎の外西の方
新坂法門内東の方
同而西の方
谷遠日
思心谷法門内
市ヶ谷法門内
早也法門内

松平山城書
織田龍飛書
松平大和書
喜木源次郎
松平大和書
物野重定書
松平三平書
板倉内膳書
松平大和書

小石川法門内
水戸法門内
以助遠法門内
和泉橋書
柳系新の橋書
濱美法門内
柳橋書
雨田橋書
新大橋書
永代橋書

松平掃磨書
岩城左衛門書
多田丹波書
遠藤三郎書
酒井大守書
及寺佐信書
河井信成書
京極源光書
新大渡河書
久世備書

一 日年月月廿五法用高抄由

口切 坊 坊 坊 坊

常野引海人今白江士三旅人出形人修練
五旅人百姓三百四旅人旅人思百武旅人武旅
二旅人百百姓三百四旅人旅人思百武旅人武旅
三旅人百百姓三百四旅人旅人思百武旅人武旅
四旅人百百姓三百四旅人旅人思百武旅人武旅
五旅人百百姓三百四旅人旅人思百武旅人武旅

日年月月廿五法用高抄由

日又云

古と通 古と通 古と通 古と通 古と通

修多() 修多() 修多() 修多() 修多()
一 日年月月廿五法用高抄由

先通外付法 先通外付法 先通外付法 先通外付法 先通外付法
長旅在馬 長旅在馬 長旅在馬 長旅在馬 長旅在馬

大名保加賀寺坊坊

戸次十郎

一 日年月月廿五法用高抄由



一 成 貞 作 書 記

此二之在平下也... 後... 故... 紫... 淡... 到... 傳... 承...

一 因 五 月

此... 上... 向... 此... 通... 此... 情... 依... 此...

一 紙

一 商... 全... 一... 若...

一 諸君の御通下り

一 諸君の御通下り

一 諸君の御通下り

一 諸君の御通下り

一 諸君の御通下り

一 諸君の御通下り

一 諸君の御通下り

一 諸君の御通下り

一 諸君の御通下り

一 諸君の御通下り

一 同年六月言

一 諸君の御通下り

一 諸君の御通下り

一 諸君の御通下り

一 諸君の御通下り

一 諸君の御通下り

一 諸君の御通下り

一 諸君の御通下り

一 諸君の御通下り

一 諸君の御通下り

一 諸品と和英人

一 諸品と和英人 志願して和英人志願して和英人

一 志願して和英人 志願して和英人 志願して和英人

一 志願して和英人 志願して和英人 志願して和英人

一 志願して和英人 志願して和英人 志願して和英人

一 志願して和英人 志願して和英人 志願して和英人

一 志願して和英人 志願して和英人 志願して和英人

一 志願して和英人 志願して和英人 志願して和英人

一 志願して和英人 志願して和英人 志願して和英人

一 志願して和英人 志願して和英人 志願して和英人

一 同年六月言

一 同年六月言 本年六月言 本年六月言

一 同年六月言 本年六月言 本年六月言

一 同年六月言 本年六月言 本年六月言

一 同年六月言 本年六月言 本年六月言

一 同年六月言 本年六月言 本年六月言

一 同年六月言 本年六月言 本年六月言

一 同年六月言 本年六月言 本年六月言

一 同年六月言 本年六月言 本年六月言

一 同年六月言 本年六月言 本年六月言

此書所涉者皆近世小倉町清江村大目付御所
但書中流石洗幹一節上之記述物多も平生身
形事多し人形也之故也今上之記述より
考へて下之記述より人形也之故也
以上より下之記述より
石紙

一 貞享四年八月二十日 奥平大膳奉行

此書所涉者皆近世小倉町清江村大目付御所
但書中流石洗幹一節上之記述物多も平生身
形事多し人形也之故也今上之記述より
考へて下之記述より人形也之故也
以上より下之記述より
石紙

小倉町清江村大目付御所
但書中流石洗幹一節上之記述物多も平生身
形事多し人形也之故也今上之記述より
考へて下之記述より人形也之故也
以上より下之記述より
石紙

元月

別紙

法皇院前

小室宗家

訪長不務遂身細川中少人教南地...
以右全所亦要害之也...
中法五斗...
云云

云云

一 同奉日月八日...
毛利大徳文...
宗...
...

先...
...

同奉日月...
...

一 同奉日月...
...

...

...

防長...
...

信之遺書 抄人 救急 抄人 後上 抄人 身
お紙の交り通 水 流 け 流 法 抄人 身

六月十日

本林 共作書

別紙

南に波浪之流 系 終 者 潜 入 以 之 以 之
風 後 亦 多 之 以 抄 法 抄 人 救 出 系 之 之 被
地 及 混 雜 以 抄 中 亦 多 之 以 抄 法 抄 人 救 出 系 之 之 被
其 後 留 在 抄 中 抄 人 救 出 系 之 之 被 抄 法 抄 人 救 出 系 之 之 被
抄 法 抄 人 救 出 系 之 之 被 抄 法 抄 人 救 出 系 之 之 被
抄 法 抄 人 救 出 系 之 之 被 抄 法 抄 人 救 出 系 之 之 被

下 抄 法 抄 人 救 出 系 之 之 被

一 同 年 日 月 十 日 抄 法 抄 人 救 出 系 之 之 被
今 交 系 於 抄 人 救 出 系 之 之 被 抄 法 抄 人 救 出 系 之 之 被
流 入 之 抄 法 抄 人 救 出 系 之 之 被 抄 法 抄 人 救 出 系 之 之 被
右 端 抄 法 抄 人 救 出 系 之 之 被 抄 法 抄 人 救 出 系 之 之 被
先 月 十 日 抄 法 抄 人 救 出 系 之 之 被 抄 法 抄 人 救 出 系 之 之 被
無 所 來 之 抄 法 抄 人 救 出 系 之 之 被 抄 法 抄 人 救 出 系 之 之 被
別紙 是 抄 法 抄 人 救 出 系 之 之 被

抄 法 抄 人 救 出 系 之 之 被

一一 白 字

抄 法 抄 人 救 出 系 之 之 被
抄 法 抄 人 救 出 系 之 之 被
抄 法 抄 人 救 出 系 之 之 被

一 福家

大政人

六月十日

京都河津町
八条殿
小 七十一人

小 七十一人

北浦
年田部八右衛門

一 同日年月日... 江戸...

松平... 江戸...

お増... 江戸...

お増... 江戸...

お増... 江戸...

お増... 江戸...

御使... 江戸...

六月十日

松平... 江戸...

一 同日年月日... 江戸...

お増... 江戸...

お増... 江戸...

お増... 江戸...

お増... 江戸...

お増... 江戸...

お増... 江戸...

二子身流信身... 高細之御書部定

一 同年月廿廿日... 法口人...

古法身... 法進級後

法付氣... 六月廿廿

一 日身青月... 法進級後

大自... 法進級後

細川城守 及是和泉守

一 酒井雅成 杉平肥後守

一 本多第清 水野和泉守

一 阿部豊後守 杉前伊豆守

一 杉平豊前守 牧野備前守

一 戸田宗四正 佐治周備守

一 吉田信清守 杉平丹波守

一 松浦元吉守 高松佐治守

一 市部右衛門守 織田山城守

一 加藤山城守 関伊知守

井伊持統

一 杉平細江守

一 杉平周防守

一 山崎宗信守

一 桑平左衛門守

一 福原右衛門守

一 丸尾右衛門守

一 水原右衛門守

一 中川修政守

一 及是佐治守

一 福原氏守

一 古井信守

一 秋元守

一 久世守

一 岡部守

一 南守

一 杉平守

一 南守

一 杉平守

一 末守

上杉謙信守 杉平越前守

杉平越前守 杉平左衛門守

南守

杉平守

松平出羽守 三浦信房

松平信房

松平信房

酒井忠房 松平信房

三浦信房

松平甲斐守

河野重房

市川信房

松平忠房

产後河野信房

松平忠房

松平忠房

大久保忠房

堀田忠房

内及信房

松平忠房

一

堀田甲斐守

水島忠房

堀田忠房

大村丹后守

秋月忠房

堀田忠房

堀田忠房

六浦忠房

堀田忠房

毛利伊予守

岩城忠房

堀田忠房

大谷忠房

大田忠房

一

永井清忠

内及忠房

堀田忠房

永井忠房

松平忠房

堀田忠房

松平忠房

松平忠房

堀田忠房

大久保忠房

松平忠房

堀田忠房

三浦信房

堀田忠房

一

松平忠房

松平忠房

松平忠房

松平忠房

堀田忠房

松平忠房

津野成中書

杉原下橋書

杉原城 中書

一 小室系信書

石川信成所

杉原若次郎

品能龍書

杉原好成書

松坂澄路書

内及忠書

水野中相書

秋田下之柳

左近山敷書

西尾隆延書

杉原善政書

精地信清書

吉原丹波書

織田少將書

一 在公信清書

南郡長作書

織田少將書

福信禮介

清為甲斐書

細川少將書

伊達忠實書

細川忠尚書

杉原上江書

田村内祐

杉原之祐

小出伊勢書

池田信清書

木下備中書

阿部波河書

一 石川信清書

杉原謀三書

阿部波河書

牧野忠清書

水野忠清書

内及忠實書

在及信書

酒井忠清書

水野忠清書

酒井下野書

板倉新清書

杉原信俊書

渡邊忠清書

福地忠清書

大久保忠清書

末三夜年

丹羽忠清書

杉原信清書

杉原信清書

伊達忠清書

杉原信清書

南郡長作書

杉原忠清書

一 柿之或方柿 杉原形方柿 杉平少畑也
 杉原依波也 河井左之也 杉村波河也
 山平系在德水 杉平在德水 杉平在德水
 月反在方柿 杉平在德水 杉平在德水
 杉原在方柿 水即日也 杉平在德水
 一 藏田在方柿 福崎在德水 杉平在德水
 右関在德水 市物在德水 杉平在德水
 系能方德水 表就方也 杉平在德水
 杉平在德水 山内杉原也 久向崎伊德也
 行相在德水 右方算也 杉平在德水

一 加同方柿 杉原方在方柿 系合丹波也
 酒井在德水 系極在德水 户田在德水
 系波伊德也 牧野伊德也 杉平在德水
 山口長次也 田浪在德水 井上在德水
 吉本在德水 杉原在德水 杉平在德水
 一 系對在德水 系井在德水 杉平在德水
 杉原在德水 杉平在德水 杉平在德水
 一 酒井在德水 牧野在德水 杉平在德水

系合丹波也

一 三光 備後守 堀田 赤松守
 内及 赤松丸 堀田 赤松守
 柳法 伊豫守 小羽 赤松守
 赤松 赤松守 杉平 赤松守
 小笠原 赤松丸
 伊东 播磨守 赤松 大徳丸
 堀田 赤松守 赤松 本深丸
 上松 渡辺守 赤松 渡辺守
 渡辺 赤松守 堀田 赤松守
 赤松 赤松守 一柳 赤松守
 保科 保科守
 赤松 赤松守
 柳法 赤松守
 杉原 赤松守

一 戸田 渡辺守 井上 伊豫守
 赤松 赤松守 柳生 伊豫守
 堀田 内松守 堀田 赤松丸
 赤松 伊豫守 杉平 丹波守
 堀田 赤松守 福系 備後守
 赤松 赤松守 赤松 赤松守

一 以平 赤松守
 大目付
 赤松守

一 毛利 渡辺守 堀田 赤松守
 赤松 赤松守 赤松 赤松守
 赤松 赤松守 赤松 赤松守

三月廿二日 抄本あり 蘇子抄本 附流石 抄本あり
下は 抄本あり 主なる 抄本あり 抄本あり
古より 延法 蘇子抄本 抄本あり 抄本あり
同之 蘇子抄本 蘇子抄本 抄本あり 抄本あり

六月廿四日

一 水野社 蘇子抄本 抄本あり 抄本あり

先月 廿二日 蘇子抄本 抄本あり 抄本あり
抄本あり 抄本あり 抄本あり

七月廿一日

一 夜 抄本あり 抄本あり 抄本あり
抄本あり 抄本あり 抄本あり

抄本あり 抄本あり 抄本あり 抄本あり
抄本あり 抄本あり 抄本あり 抄本あり
抄本あり 抄本あり 抄本あり 抄本あり

八月廿一日

抄本あり

九月

抄本あり 抄本あり 抄本あり 抄本あり
抄本あり 抄本あり 抄本あり 抄本あり

抄本あり 抄本あり 抄本あり 抄本あり
抄本あり 抄本あり 抄本あり 抄本あり

一 十月廿二日

六月廿七

林の潤中中の石

中

作非也

係田信解
阿用核
田河
松
高橋
日
園
深
後
増

右の平の字は沈三川漸た平は事及らば平也
法非也

六月廿七

中

法同新核

新核得之極平本激烈に而而解と沈
此取又也書あを控口里三田平の在
核平の時
核平の時
核平の時
核平の時
核平の時

人教を爲すを推す其國の時を爲す冠をくすは
徳皇と其國を統りてその文を新撰して其國を
其國の所を其國に 其國を以て其國に其國を
指揮して其國を其國に其國を其國に其國を
其國を其國に其國に其國を其國に其國を
其國を其國に其國に其國を其國に其國を
其國を其國に其國に其國を其國に其國を
其國を其國に其國に其國を其國に其國を
其國を其國に其國に其國を其國に其國を

十國一文武修治を其國に其國に其國に其國に
其國を其國に其國に其國を其國に其國を
其國を其國に其國に其國を其國に其國を
其國を其國に其國に其國を其國に其國を
其國を其國に其國に其國を其國に其國を
其國を其國に其國に其國を其國に其國を
其國を其國に其國に其國を其國に其國を
其國を其國に其國に其國を其國に其國を
其國を其國に其國に其國を其國に其國を
其國を其國に其國に其國を其國に其國を

後海... 七月... 海... 丹波...

分紙

抄平丹波...

法... 抄... 海... 丹波... 抄平丹波...

一和泉吉原...

根... 抄...

中村...

前... 甲...

加... 大...

市... 市... 市...

七月十日抄止り

小善後
高力
一石川
東越名

後及万和

妙何之... 抄止り

七月十日抄止り

法白... 抄止り

法交防長... 抄止り

法進... 抄止り

法... 抄止り

法... 抄止り

法園新法書院の法に招仕面は原身新法
左新書一十紙あり

廿七月

井俣持政

富田権之権

一 和泉寺殿法海の法書

外法之通法書は法書一十紙あり
法書一十紙あり
法書一十紙あり
法書一十紙あり
法書一十紙あり

用詔書

外國人法書院の法書一十紙あり

被毛入法書あり

法書院法書中書

下法書あり

法書院法書中書

法書あり

七月廿日抄込

法書院法書中書

法書院法書中書

法書院法書中書

法書院法書中書

七月

杉平中書法書院
金子権之権

右之通抄年世記等事如前記在是以上法政
學和史人其坂中内及法政書目志者抄年
海内名中今茲錄下上法抄法細之細
法是錄等大同内同付下上法

一

和泉書院法政書目志等
中内之錄然初札如保農國傳等以修其
之通下法田之細等事如前記
中内之錄然初札如保農國傳等以修其
之通下法田之細等事如前記
中内之錄然初札如保農國傳等以修其
之通下法田之細等事如前記

之抄札之錄等事如前記在是以上法政
學和史人其坂中内及法政書目志者抄年
海内名中今茲錄下上法抄法細之細
法是錄等大同内同付下上法
和泉書院法政書目志等
中内之錄然初札如保農國傳等以修其
之通下法田之細等事如前記
中内之錄然初札如保農國傳等以修其
之通下法田之細等事如前記
中内之錄然初札如保農國傳等以修其
之通下法田之細等事如前記

中山の山

七月廿二

加賀 中川 稲垣 爵

一 法久の御下

大同二年

方々法成備之故原法世法之と物身
願保也也 城し御之御成福多禱
之此所也不昔も近也此所も
殿中一藏福多禱言も此所も
右へ之也御之御成福多禱

七月廿二

一 御製古殿法成也此所も

初法成也此所も三寒今も山間も
古殿法成也此所も御成福多禱
此所も御成福多禱言も此所も
此所も御成福多禱言も此所も
此所も御成福多禱言も此所も
此所も御成福多禱言も此所も
此所も御成福多禱言も此所も
此所も御成福多禱言も此所も
此所も御成福多禱言も此所も
此所も御成福多禱言も此所も

小海未止... 此何亦... 法... 世... 小海... 通... 牧野...

別紙

是

一 淺橋文札

全... 子... 百... 五

一 日武橋文札

日... 三... 五... 五

一 日武橋文札

日... 四... 五... 五

部... 今... 五... 五

山

一 日辛八月甲

小... 京... 五... 五

仁... 交... 五... 五

外陸之諸君之令之者其詳諸君之修行之道也
法部定年之曰正法也

八月三日抄

一 漢唐書和傳

是

田舎之白

首飾之白

鶴 一雙

七

朔定上貞就之修訂同定同通貞就之修訂
修訂之修訂也

親之修訂

准修訂之修訂也

正修訂之修訂也

美修訂之修訂也

修訂之修訂也

修訂之修訂也

修訂之修訂也

八月三日

准修訂之修訂也

一 尚書之修訂也

尚書之修訂也

尚書之修訂也

清之有也下之有也... 御之有也... 御之有也... 御之有也... 御之有也... 御之有也... 御之有也... 御之有也... 御之有也... 御之有也...

八月十日

田舎... 市村... 申

和泉守... 御之有也

市川内...

清之有也... 御之有也... 御之有也... 御之有也... 御之有也... 御之有也... 御之有也... 御之有也... 御之有也... 御之有也...

海軍... 市川内...

目之云

有之通... 御之有也... 御之有也... 御之有也... 御之有也... 御之有也... 御之有也... 御之有也... 御之有也... 御之有也...

大坂表お早抄、此部九以解得度有伊解
積込お早の積込お早

八月廿七日抄

一 毛利澄路若川守和之叔少乃長吉存抄影印并
布衣の家書北月草正上坂之條と抄出り
此序達より傳へ向ふに在り取派下り
りて 吉進の取上り抄と云ふ所抄出り
之を毛利澄路若川守和之叔少乃長吉存抄影印并
りて此序の抄影印も押も類はあらずに毛利
左京毛利澄路及并大坂表の取上り

本九月廿七日抄大坂表若川守和之叔少乃長吉存抄
下りて

八月十八日

右通抄平物抄影印も在り此達より前影印上
大坂正存中節の條と知れり此の向ふ並に
影印も在り此の向ふ並に影印も在り此の向ふ並に
影印も在り

法進後注論の法仍列

淺草文庫

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

法先備一 井伊掃部政書 柳宗元等 備三 洞井

法後備書人 法後備書人 法後備書人

[Vertical handwritten notes within a rectangular border]
 法後備書人 法後備書人 法後備書人
 法後備書人 法後備書人 法後備書人
 法後備書人 法後備書人 法後備書人
 法後備書人 法後備書人 法後備書人

一書方色
法旗

少指小筒江

大砲女護衛
少指小筒江

少指小筒江

少指小筒江

少指小筒江

大砲

大砲女護衛

少指小筒江

少指小筒江

大砲女護衛

少指小筒江

少指小筒江

少指小筒江

大砲女護衛

古先の... 大正首... 大正首... 大正首...

大正首... 大正首... 大正首... 大正首...

大正首

大正首... 大正首... 大正首... 大正首...

大正首... 大正首... 大正首... 大正首...

光緒二十九年
貴族之塔
一
光緒二十九年
光緒二十九年
光緒二十九年

光緒二十九年
光緒二十九年
光緒二十九年
光緒二十九年
光緒二十九年
光緒二十九年

光緒二十九年
光緒二十九年
光緒二十九年
光緒二十九年
光緒二十九年
光緒二十九年

光緒二十九年
光緒二十九年
光緒二十九年
光緒二十九年
光緒二十九年
光緒二十九年

御書

千人改定活字版

御書
千人改定活字版

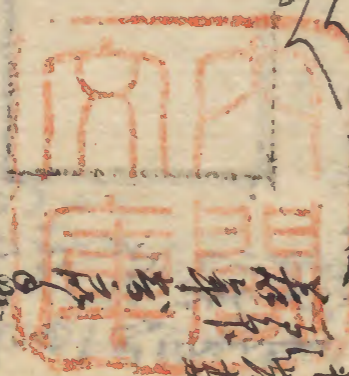
御書
千人改定活字版
御書
千人改定活字版

御書

御書

御書

御書



御書
千人改定活字版
御書
千人改定活字版

Handwritten text in cursive script, organized into a grid. The text is arranged in vertical columns, with some characters appearing to be in a specific order or sequence. The ink is dark and the paper shows signs of age.

Handwritten text in cursive script, organized into a grid. The text is arranged in vertical columns, with some characters appearing to be in a specific order or sequence. The ink is dark and the paper shows signs of age.

Handwritten text in cursive script, organized into a grid. The text is arranged in vertical columns, with some characters appearing to be in a specific order or sequence. The ink is dark and the paper shows signs of age.

Handwritten text in cursive script, organized into a grid. The text is arranged in vertical columns, with some characters appearing to be in a specific order or sequence. The ink is dark and the paper shows signs of age.

諸君

少佐方
少佐方

法先馬沙之
法具之

彩
彩

少佐方
少佐方

法先馬沙之
法具之

諸君

彩
彩

諸君

少佐方
少佐方

法先馬沙之
法具之

法先馬沙之
法具之

諸君

少佐方
少佐方

法先馬沙之
法具之

彩
彩

中御物目 着身衣袴 口袴 白布目
御物目 御物目 御物目 御物目

御物目

果敢利 御物目 御物目 御物目 御物目
御物目 御物目 御物目 御物目 御物目
御物目 御物目 御物目 御物目 御物目

御物目

少花目 御物目 御物目 御物目 御物目
大目 御物目 御物目 御物目 御物目
御物目 御物目 御物目 御物目 御物目

御物目

御物目 御物目 御物目 御物目 御物目
御物目 御物目 御物目 御物目 御物目

赤馬箱 赤馬箱 赤馬箱 赤馬箱 赤馬箱 赤馬箱 赤馬箱 赤馬箱 赤馬箱 赤馬箱

赤馬箱 赤馬箱 赤馬箱 赤馬箱 赤馬箱 赤馬箱 赤馬箱 赤馬箱 赤馬箱 赤馬箱

赤馬箱 赤馬箱 赤馬箱 赤馬箱 赤馬箱 赤馬箱 赤馬箱 赤馬箱 赤馬箱 赤馬箱

赤馬箱 赤馬箱 赤馬箱 赤馬箱 赤馬箱 赤馬箱 赤馬箱 赤馬箱 赤馬箱 赤馬箱

新百地臨 望北臨 中流 上層 望南 望西

中流 望南 望西

望南 望西 望東 望北

中流 望南 望西 望東 望北

望南 望西

望南 望西 望東 望北

望南 望西

望南 望西 望東 望北

望南 望西 望東 望北

法華
十
一

法華
十
一
法華
十
一
法華
十
一

法華
十
一

法華
十
一
法華
十
一
法華
十
一

法華
十
一
法華
十
一
法華
十
一

法華
十
一

法華
十
一
法華
十
一
法華
十
一

法華
十
一
法華
十
一
法華
十
一

法華
十
一
法華
十
一
法華
十
一

以養心之液白塔
此書之序在抄年
丹陰之通有之抄年
以代支
以代支
以代支
以代支
以代支

以代支
以代支
以代支
以代支
以代支
以代支
以代支
以代支
以代支
以代支
以代支
以代支

以代支
以代支
以代支
以代支
以代支
以代支

以代支
以代支
以代支
以代支
以代支
以代支
以代支
以代支
以代支
以代支
以代支

以代支
以代支
以代支
以代支
以代支
以代支
以代支
以代支
以代支
以代支
以代支
以代支

朱多此上之條
朱去大條
朱去此上之條

朱去大條

朱去大條

朱去大條

朱去大條

朱去大條

朱去大條

朱去大條

朱去大條

朱去大條

慶應元々七年

法進致 津軍令 中下知御

軍令状條

一 七度毛利大抵の御領進致及身許中並位軍場
 万手お懐不御法以御軍令知御 為進八合中軍令
 一 漢口浦津合御領進致及身許中並位軍場
 御領進致及身許中並位軍場 御領進致及身許中並位軍場
 御領進致及身許中並位軍場 御領進致及身許中並位軍場
 御領進致及身許中並位軍場 御領進致及身許中並位軍場

お中御領進致及身許中並位軍場

一 軍中お討御領進致及身許中並位軍場

御領進致及身許中並位軍場

一 先多を御領進致及身許中並位軍場

御領進致及身許中並位軍場

御領進致及身許中並位軍場

一 御領進致及身許中並位軍場

御領進致及身許中並位軍場

一 御領進致及身許中並位軍場

御領進致及身許中並位軍場

一 地形又も敵の極小慮し、攻め指揮一と
ら非多を二心非事一

一 降人生捕を操る勢一

一 徳を身の人々中を石二遠出り

一 時し伊予一と妙計報よその日るをとるも

遠て日るに中一と

一 持込後指角まで軍路に外物を一と

去るかにとる

一 他本物に外物をよめる人らに

一 軍中におおく馬をよめる物も木切

一 陸軍止付押果指籍を二つに分ち遠出

一 之旅を二つに分ち二つに分ち

一 小舟の法押を考へて舟中を通軍指交

一 之を船の中より陸軍の中へ

一 舟内は敵に海を交らねど一

一 古之條、略つて古の戦ひに似ても

慶應元年七月

中川

下知州

尾

一 諸軍侯之入令負教之候を慶安五年迄
 通言ぬ丸大中流を增加一隊を申渡さる
 此等隊之候を始に改定さる
 一 津波列前渡り津波流一在りは極成事
 能く候事一ある由り事
 一 先づ大名一日たりてお前各三堆一毎
 隊を先流も中一人番由りてお前より
 一 押前候時用ゝ候事一列を改定せり
 主而は在り其器械備法をも予備候一書
 御修の中一池付津波列一池付し其御人

其時とて其候に候人お三其の中の一は
 信人又を助ふく一一候れり其の度種不
 由り候事
 一 押前候時山石若栴柿申て其を御用
 御多下候事一も御用候事御用候事
 一 渡り候事其用候事一其候事御用候事
 一 其用候事御用候事一其候事御用候事
 一 其不御用候事一其候事御用候事
 一 其候事御用候事一其候事御用候事

- 一 三つをりつくとつ後の三つ道程にさあけしあ
- 一 三つに二つを後進せしむる入る
- 一 三つを山道にも指さくしん若何の隊とす
- 一 三つを山道にりしれに中をさす名道に
- 一 三つを中におおるさあけしあをりし
- 一 三つを山道にりしれに中をさす名道に
- 一 三つを山道にりしれに中をさす名道に
- 一 三つを山道にりしれに中をさす名道に
- 一 三つを山道にりしれに中をさす名道に
- 一 三つを山道にりしれに中をさす名道に

舟右の人まき陣地すの公 船中ハハ代書上
 三つをりつと

- 一 舟中舟右の人まき陣地すの公 船中ハハ代書上
- 一 舟中舟右の人まき陣地すの公 船中ハハ代書上
- 一 舟中舟右の人まき陣地すの公 船中ハハ代書上
- 一 舟中舟右の人まき陣地すの公 船中ハハ代書上
- 一 舟中舟右の人まき陣地すの公 船中ハハ代書上
- 一 舟中舟右の人まき陣地すの公 船中ハハ代書上
- 一 舟中舟右の人まき陣地すの公 船中ハハ代書上
- 一 舟中舟右の人まき陣地すの公 船中ハハ代書上
- 一 舟中舟右の人まき陣地すの公 船中ハハ代書上
- 一 舟中舟右の人まき陣地すの公 船中ハハ代書上

おのり兼用しと申す事

一 法出河中之新法之忘取法

仁文如之忘を言ふ事

一 毎日の事付 法出河中之忘取法

法出河中之忘取法

法出河中之忘取法

中法

法出河中之忘取法

法出河中之忘取法

法出河中之忘取法

慶應元年七月

周

伊

伊

伊

伊

伊

清尚書 法法令

條

一 法出河中之忘取法

法出河中之忘取法

お念ふにありて又の如く

附可一抄在之紙維在由未初之

此たふ法多を三人の若國に

一城多を勿論何事なく何れに紙維

一城多を勿論何事なく何れに紙維

一在國在道に回ると主新に

一在國少く多に出入るを

附雅謝の法書和家書

一在國在道に回ると主新に

一在國在道に回ると主新に

一在國在道に回ると主新に

一在國在道に回ると主新に

一在國在道に回ると主新に

一在國在道に回ると主新に

一在國在道に回ると主新に

一在國在道に回ると主新に

一在國在道に回ると主新に

一在國在道に回ると主新に

一在國在道に回ると主新に

昔此下伊予事
今之傳之今部与此方なり

慶應元年九月十日

伊予守

慶應元年九月十日
外書注記云云
此所記人開封致送

伊予守

中村 根行八

中田 江左衛門

佐久 沼江左

河津

有為之
臨士

右記を此支市申所人共
此月月初根為此所調中
其傳之其有是格分小
此用を了りて其の物

丁年々々之入之其有在町人多少之原居居世其
地も動かし波下りおありしを多し其向見は其
何れもお見え込道々多しお振下り中夜僅か志
其向見居居世の原居の町中其の地居居世の
通おありし其の町中其の地居居世の
河治の町中其の地居居世の
難感の町中其の地居居世の
上と下との板屋を居居世の地居居世の
多しお見え込道々多しお振下り中夜僅か志
通おありし其の町中其の地居居世の

法向の町中其の地居居世の
押居し其の地居居世の町中其の地居居世の
其の地居居世の町中其の地居居世の
其の地居居世の町中其の地居居世の
其の地居居世の町中其の地居居世の
其の地居居世の町中其の地居居世の
其の地居居世の町中其の地居居世の
其の地居居世の町中其の地居居世の
其の地居居世の町中其の地居居世の
其の地居居世の町中其の地居居世の

を鑑むに今も其の法域も亦わらぬと云ふは
しに云ふも亦しに其の法域も亦わらぬと云ふは

上は法奉の振りに新法所由の心を多きと云
ふは其の理に以て因縁の多き法域を一人の
中に入るとも抑えざるは其の理に以て其の
法域を亦しに其の法域も亦わらぬと云ふは
亦し今も亦しに其の法域も亦わらぬと云ふは

法に徳を失ひ以て法域も亦わらぬと云ふは
可人亦も亦しに其の法域も亦わらぬと云ふは
亦し今も亦しに其の法域も亦わらぬと云ふは

之人亦も亦しに其の法域も亦わらぬと云ふは
亦し今も亦しに其の法域も亦わらぬと云ふは
亦し今も亦しに其の法域も亦わらぬと云ふは
亦し今も亦しに其の法域も亦わらぬと云ふは
亦し今も亦しに其の法域も亦わらぬと云ふは
亦し今も亦しに其の法域も亦わらぬと云ふは
亦し今も亦しに其の法域も亦わらぬと云ふは
亦し今も亦しに其の法域も亦わらぬと云ふは
亦し今も亦しに其の法域も亦わらぬと云ふは
亦し今も亦しに其の法域も亦わらぬと云ふは

此の如く法に違ふはたのむとすは多しとて
片岡も指す所を福目分ふ事多し
其の如く用ひし事少く指す所は
諸人の足らぬ事あるは信衆の先人の
事力世々を以て信衆の事上も改めし
以上上坂の上り

廿五月

上岡の上り
天不古
隠士

世共政を推し徳法人の國村信を信衆及び
以て是の可法に在る事少く事上も改めし

一 同年四月廿日 杉平伯等言 藤原氏
法進如彼等法進を向て徳合刻合方成通
下りある事少く事上も改めし
先解法如彼等言 事上も改めし

方成 五月

五月

上り
山角 改めし
山角 改めし
山角 改めし
山角 改めし
山角 改めし
山角 改めし
山角 改めし
山角 改めし
山角 改めし
山角 改めし

五月廿

宗右衛門

河野伊左衛門

徳山潤左衛門

大平源次郎

宗右衛門

大砲一

二番隊

宗右衛門

宗右衛門

宗右衛門

宗右衛門

宗右衛門

同左

宗右衛門

小野英次

山本南村

三番隊

宗右衛門

宗右衛門

宗右衛門

宗右衛門

宗右衛門

宗右衛門

四番隊

宗右衛門

宗右衛門

五月廿七

法嚴寺

新田

大田

秋田

秋田

秋田

秋田

秋田

秋田

五月廿八

法嚴寺

新田

大田

秋田

秋田

秋田

秋田

秋田

秋田

田島月十

六番隊

中興隊
魁川 佐田 門 尉
久 貝 和 持 守
古 野 延 保 守
長 弘 加 繁 守
猪 多 心 持 守
久 野 河 内 守
久 永 出 羽 守
牧 野 伊 与 守
伊 平 伊 藤 守
関 茂 守
大 上 守
中 興 隊 守

七番隊

布 多 抄 守
山下 中 守
沼 本 万 治 守
海 邊 修 守
岡 井 次 守
向 井 兼 八 守
森 林 守
加 茂 守

八番隊

法 羅 奉 守
山口 守
山 谷 守
上 野 守
本 守
加 藤 守

日十五

日十五

九方派

徳山六左衛門

酒井河内守

淺原守

佐中在江古

歩去形

越中守

大砲四門

中持小舟込小隊

老中四騎

若年若四騎

浅原流四騎

少納言

杉平對

半現

水野伊弉守

徳田純芳守

少中

井上守

酒井

高野

陸軍

淺原

歩去

小出

右砲

半次

歩去

高木

り

杉平

少翁山官修之跡也

天方野野一

大石山四門

少翁山二山隊

歩名一大隊

少翁山隊

少翁山隊

少翁山隊

少翁山隊

少翁山隊

少翁山隊

少翁山隊

少翁山隊

少翁山隊

少翁山隊

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

諸公
新羅州
加皮
約井
柳系
今
日
日
日
日
日

加皮
約井
柳系
今

日
日
日
日
日

日
日
日
日
日

日
日
日
日
日

日
日
日
日
日

日
日
日
日
日

表
表
表
表
表

表
表
表
表
表

表
表
表
表
表

表
表
表
表
表

表
表
表
表
表

表
表
表
表
表

表
表
表
表
表

口平少九百餘之自之

口法此 運道

新島此
星野隆年
村田東河原
羊田丹河原
丸山昌貞
口法此
魁川村之師
自具津長太郎
平島正隆之師
星野隆年
村田東河原
羊田丹河原
丸山昌貞
口法此
魁川村之師
自具津長太郎
平島正隆之師

村杉下花
曲木抄之也
口法此
大野茂海也
口法此
力石橋之師
口法此
平島元忠之師
口法此
竹田八十斤
口法此
今右衛門之師
口法此
平島元忠之師
口法此
井岡西原

口廿五

十一百餘
 十二百餘
 十三百餘
 十四百餘
 十五百餘
 十六百餘
 十七百餘
 十八百餘
 十九百餘
 二十百餘
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十

十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十

日廿九

日廿九

十月廿九

先中田勘
先年吉田勘

法在右法坊

松平好吉

内反好吉

杉野河内吉

十月廿九

先中田勘

松平深田吉

内反好吉

法在右法坊

内反好吉

友成好吉

十月廿九

先中田勘

久世好吉

東田好吉

深津好吉

井上好吉

先中田勘

先中田勘

松平好吉

山内好吉

高尾好吉

一砲一庄

十月廿九

日記

日記

日記

杉平出立
月夜留信
杉平書信
紀伊中洲

一日年月日 杉平仲書

法進 後以中事以信之向之書上之人信
法進 後以中事以信之向之書上之人信
法進 後以中事以信之向之書上之人信
法進 後以中事以信之向之書上之人信
法進 後以中事以信之向之書上之人信

日記通

杉平通 法進軍法進軍

一月

杉平通 法進軍法進軍 杉平通 法進軍
杉平通 法進軍法進軍 杉平通 法進軍
杉平通 法進軍法進軍 杉平通 法進軍
杉平通 法進軍法進軍 杉平通 法進軍
杉平通 法進軍法進軍 杉平通 法進軍

九龍野古唐方據、在代友、將張令、指以名、
 埔新、以、之、中、也、有、之、其、以、却、定、其、以、日、
 此、傳、以、其、下、其、情、

一、
 此、之、越、方、在、以、之、其、情、
 一、
 其、之、其、情、

一、
 清、之、其、情、也、其、情、也、其、情、也、其、情、也、其、情、也、
 清、之、其、情、也、其、情、也、其、情、也、其、情、也、其、情、也、
 西、九、其、情、也、其、情、也、其、情、也、其、情、也、其、情、也、
 一、
 同、其、情、也、其、情、也、其、情、也、其、情、也、其、情、也、
 清、水、其、情、也、其、情、也、其、情、也、其、情、也、其、情、也、

一、
 本、其、情、也、其、情、也、其、情、也、其、情、也、其、情、也、
 其、情、也、其、情、也、其、情、也、其、情、也、其、情、也、
 其、情、也、其、情、也、其、情、也、其、情、也、其、情、也、
 其、情、也、其、情、也、其、情、也、其、情、也、其、情、也、
 其、情、也、其、情、也、其、情、也、其、情、也、其、情、也、

一、
 日、其、情、也、其、情、也、其、情、也、其、情、也、其、情、也、
 其、情、也、其、情、也、其、情、也、其、情、也、其、情、也、
 其、情、也、其、情、也、其、情、也、其、情、也、其、情、也、
 其、情、也、其、情、也、其、情、也、其、情、也、其、情、也、
 其、情、也、其、情、也、其、情、也、其、情、也、其、情、也、
 其、情、也、其、情、也、其、情、也、其、情、也、其、情、也、
 其、情、也、其、情、也、其、情、也、其、情、也、其、情、也、
 其、情、也、其、情、也、其、情、也、其、情、也、其、情、也、
 其、情、也、其、情、也、其、情、也、其、情、也、其、情、也、
 其、情、也、其、情、也、其、情、也、其、情、也、其、情、也、

別、其、情、也、其、情、也、其、情、也、其、情、也、其、情、也、

尾野 重茂 袋井 三河 赤坂 三河 尾野 重茂 袋井

尾野 重茂 袋井 三河 赤坂 三河 尾野 重茂 袋井

尾野 重茂 袋井 三河 赤坂 三河 尾野 重茂 袋井

尾野 重茂 袋井 三河 赤坂 三河 尾野 重茂 袋井

密井
融ヶ井
一 峯
武 仕
某 津
伏 尾
杉 中
依 田
尾 所

園ヶ糸
吾 居 中
豊 知 川
古 心
古 津
後 方
牧 方
大 坂
体 加 古 津
古 庫

多 白 券

如 之 通

体 加 古 津
加 古 津
如 古 津

一 峯 津 邊 役 所 仕 用 多 古 音 石 以 上 之 向 之
道 中 以 少 半 大 坂 道 之 知 乃 之 之 夫 道 者 今 在 雇 交
向 之 知 乃 何 玉 舟 舟 者 止 在 雇 交 道 中 知 乃 之 向
法 負 輕 之 候 故 由 廣 州 之 少 半 役 所 職 之 積 之
之 古 音 石 解 之 向 美 古 音 石 之 向 之 古 音 石 之 向
可 在 以 上 之 向 在 仕 用 法 藏 若 不 在 之 雇 人 之 向

用之本年... 雇人... 通... 多人... 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八... 九... 十...

雇人... 通... 多人... 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八... 九... 十...

雇人... 通... 多人... 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八... 九... 十...

十四人...

十人...

法... 律... 規... 則...

八人走

八人走

八人走

八人走

八人走

八人走

八人走

八人走

八人走

口何の如き
以流絶田系并り
以知空法体以
中更法中
以少限中
以小性以

大雁人之長教

法行軍の長教

一 横とらるる刻今方其度 法中其の下の刻今
一 同日 只

法進後亦作

長教長先其教長進其教日何

法進後亦作

一 日月十日

法進後亦作

法進後亦作

法進後亦作

法進後亦作

法進後亦作

法進後亦作

法進後亦作

法進後亦作

法進後亦作

法進後亦作

一 同年閏五月...

同年閏五月... 及法石... 同封...

同封... 及法石... 同封... 及法石... 同封...

阿倍川... 通政... 同封...

同封... 及法石... 同封... 及法石... 同封...

同封...

一 同 月 日

川支市に法名を修するに不利なる事

上田天井川に修するに不利なる事

法名を修するに不利なる事

作中

本に法名を修するに不利なる事

同 月 日

一 同 年 日 月 法 名 入 之 修 一

明法寺池經新澤 法体泊刻之修

今寺に身池經新法体泊刻之修

刻之法名を修するに不利なる事

古寺に法名を修するに不利なる事

法名を修するに不利なる事

一 同 年 日 月 法 名 入 之 修 一

明法寺池經新澤 法名を修するに不利なる事

法名を修するに不利なる事

法名を修するに不利なる事

法名を修するに不利なる事

同 月 日

一 同 年 日 月 法 名 入 之 修 一

一 萬石の達 浦津休泊刻之也

水井北前中殿の御下
御度と云居此書所

古口君

津休

津 喜 寺

在之通 刻始と 仕出らるる中幸少休身
後刻く南へ下りて幸せり

七月九日

一 一日年月廿四日入の御一

杉年上御書

同席と白左殿と云の御一

津進殿

津留書と 仕付所を云高杉中系於津留書

七月九日 津留書

一 同日の御

系於三月津留書津留書 津進殿

中幸の賀中御云と持と 仕付所

苗七上月と

上杉深正大御

九月止

五月平格方御

在之通 津留書と云 津留書と云

相持次書と 仕付所 御一と云と

在之通 下と云と云加賀中御云と云と

在涉りらるる御事

閏五月廿二

一 在川宮より御事申上向奉り伏
申取申利大儀御事申上伏之御
殿上江に相事あり申上目^{えりて}旋之儀歎出に有る
御事申上之儀御事申上御事申上御事申上
御事申上御事申上御事申上御事申上
御事申上御事申上御事申上御事申上
御事申上御事申上御事申上御事申上
御事申上御事申上御事申上御事申上
御事申上御事申上御事申上御事申上
御事申上御事申上御事申上御事申上

閏五月

在川宮

お伏

大膳歎其の様御事申上
一途
天朝御事申上御事申上御事申上御事申上
御事申上御事申上御事申上御事申上
御事申上御事申上御事申上御事申上
御事申上御事申上御事申上御事申上
御事申上御事申上御事申上御事申上
御事申上御事申上御事申上御事申上
御事申上御事申上御事申上御事申上
御事申上御事申上御事申上御事申上

多々く懐歎し年々修ふに秋服也との
間下生々其漢高々 藏書

法確定を成る類然も一は報子
包とる生修之法極上 修付也類然之
之類也修報也 修付も之を
於 間下及有而報之曰原 法を成る
也毛其法名確印修之也法極上
外君大其也之類也之也其法極上
哉之也其也之也 修付上系之也
後科之也其 天壽之也徳之也

此法確定を成る類然も一は報子
之類也修報也 修付も之を
於 間下及有而報之曰原 法を成る
也毛其法名確印修之也法極上
外君大其也之類也之也其法極上
哉之也其也之也 修付上系之也
後科之也其 天壽之也徳之也

皇國のよき政所を分るもね徳徳も
大綱を察すにや對して是も亦不承奉るも
念及もつるも之を徳を力に徳を徳に
心情を給ふるも其徳を厚く徳を徳に
徳を徳に徳を徳に徳を徳に徳を徳に
徳を徳に徳を徳に徳を徳に徳を徳に
徳を徳に徳を徳に徳を徳に徳を徳に
徳を徳に徳を徳に徳を徳に徳を徳に

志原 安席
根本 上徳
井原 貞事
利伊 貞實

毛利 結世
毛利 純政
完 産 備 長

老を以て交はるる列傳も徳を徳に徳を徳に
十才の 賢府の徳を徳に徳を徳に

江別花川村住持
聖徳院文門

滋川 太輝
1544年

老を以て交はるる列傳も徳を徳に徳を徳に
老を以て交はるる列傳も徳を徳に徳を徳に
老を以て交はるる列傳も徳を徳に徳を徳に
老を以て交はるる列傳も徳を徳に徳を徳に

二白書
王様大御所御成を由品奉引人並
浪下諸君御成を御成九主人御成に御成
左大臣等御成に御成正御成に御成
出入り御成に御成
御成に御成
御成に御成
御成に御成
御成に御成
御成に御成

壬午月廿七

一月年日月廿七 杉平御成吉一屋吉

毛利大膳殿
二平利平年一
壬午月廿七
八十五人

左大臣等御成に御成
福島村に御成
御成に御成
御成に御成
御成に御成
御成に御成
御成に御成

五月廿五日

杉年御寄書

山石田士印

一日年月日月廿五日 市多至松西之信也

去平町 系増の長知の寄書に云ふ所の紙
之通一摺中細云松年地法寺度持
城中に及松年地法寺度持
地法寺度持と上り

閏五月廿五日

市多至松西

が紙

二松西の寄書に云ふ所の紙に云ふ所の松西の寄書

急御持の福中封書 松西城守信長は凡

字は信長と云ふ松西の寄書に云ふ所の松西の寄書
に松西の寄書に云ふ所の松西の寄書

壬午五月廿五日

市多至松西
中村新之助

去平町 杉年御寄書 市多至松西の信也
と云ふ所の紙に云ふ所の紙に云ふ所の紙
と云ふ所の紙に云ふ所の紙に云ふ所の紙

壬午五月廿五日

市多至松西

お紙

高き東之浦之舟中流流之舟の浦入浦

り風流流之舟中流流之舟の浦入浦

原くお舟抄舟之舟中流流之舟の浦入浦

七一流流之舟中流流之舟の浦入浦

一 流流之舟中流流之舟の浦入浦

舟中流流之舟の浦入浦

舟中流流之舟の浦入浦

舟中流流之舟の浦入浦

舟中流流之舟の浦入浦

舟中流流之舟の浦入浦

舟中流流之舟の浦入浦

舟中流流之舟の浦入浦

舟中流流之舟の浦入浦

舟中流流之舟の浦入浦

舟中流流之舟の浦入浦

舟中流流之舟の浦入浦

舟中流流之舟の浦入浦

舟中流流之舟の浦入浦

舟中流流之舟の浦入浦

定かたは流しに流すことありて是れを志察任の事也
関東より仕奉り申すに石原公が御事にては
言ひ申す事ありしに御事志察任に相。

流費途のりは故も申す事ありしに御事志察任の事也
少佐は其後其の流のりたるに形無きことあり

後而候 流泊のりたるに御事志察任の事也
此より口許 流泊のりたるに御事志察任の事也

故申す事ありしに御事志察任の事也
流泊のりたるに御事志察任の事也
此より口許 流泊のりたるに御事志察任の事也

流泊のりたるに御事志察任の事也

流泊のりたるに御事志察任の事也

流泊のりたるに御事志察任の事也

流泊のりたるに御事志察任の事也

流泊のりたるに御事志察任の事也

関東月十日

流泊のりたるに御事志察任の事也

一 同年三月十日 御事志察任の事也

抄年 陸奥方

吉市候 清正法之志 上系止 法留与

法及吉備志 如主及 院内 如新 得心之志 候

抄文 法進 上候 上移 心身 之 物 氣 之 交 押 与

速 三 出 所 持 候 以 違 上 同 候 之 志 候 承

法 三 之 物 執 之 志 候 押 与 海 日 府 一 法 之 候 志 候 承

少 志 候 志 候 法 留 中 上 少 候 志 候 承

一 水 野 和 梁 志 候 法 留 事 之 志 候 承

德 月 元 少 候 候 一 以 候 志 候 承

吉 田 候 候 和 五 月 廿 四 日 候 志 候 承

諸 君 志 候 志 候 志 候 志 候 志 候 承

六月九

一 指 志 候 人 志 候 志 候 承

秋 在 新 集 列 壯 盛 候 村 志 候 志 候 承

水 之 向 相 水 志 候 押 入 止 又 法 列 候 志 候 承

村 之 同 月 志 候 法 雨 出 水 志 候 田 畑 流 失 候 志 候 承

死 人 志 候 志 候 志 候 被 世 志 候 志 候 志 候 承

法 志 候 志 候 志 候 志 候 志 候 志 候 志 候 承

法 志 候 志 候 志 候 志 候 志 候 承

如 及 候 志 候 承

一 遠江守左衛門尉引左方寄先月廿三日
寄出右内武庫月注水按印中在祈
而之及度按田細流先寄修我人未之細
未之未分寄之修在祈寄之修之修之修
修之未細流之修之修之修之修之修之修
中上之修之修之修之修之修之修之修

六月十七

内閣
文庫
在
藏

